

# 令和5年度八尾市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事概要

日 時：2月21日（水）午前10時～12時  
場 所：八尾市文化会館プリズムホール  
4階 会議室1  
出席者：委 員 16名（欠席4名）  
事務局 14名

## 次第1

### 開会・委員紹介

### 當座部長より挨拶

## 次第2

### 案件（1）会長の選出について

八尾市社会福祉審議会条例第7条第2項に基づき、委員等の互選により専門分科会長として松端委員を選出。

松端分科会長により挨拶。

第4次八尾市地域福祉計画ができて3年が経過しようとしており、来年度の4年目に中間見直しを行う。八尾市は重層的支援体制整備事業に力を入れており、地域組織が強いことが特徴であり、その財産を活かして、地域福祉を推進していけたら良いのではないかと。

### 案件（2）第4次八尾市地域福祉計画の推進及び取組み進捗状況及び前期振り返り等について

〈事務局から下記の資料を説明〉

【資料1-1】第4次八尾市地域福祉計画 進捗状況

【資料1-2】第4次八尾市地域福祉計画 令和5年度追加取組み等

【資料1-3】第4次八尾市地域福祉計画 前期振り返りについて

〈委員の意見・質問等〉

【 会長 】

お気づきの点や質問などあれば、いただきたい。

デジタルサポーター養成講座をしているようだが、みなさんはスマホを使いこなしているか。

【 委員 】

八尾市では「まちのコイン」に力を入れており、スマホでQRコードを読み込んで使う。

### 【 事務局 】

コイン名称は「やおやお」と言い、アプリで、鎌倉で始まった仕組みである。自治体ごとに参加しているが、他の自治体とコインを交換できたり、ボランティアに参加すると「やおやお」をもらえたりする。具体的な登録者数は分からないが、八尾市が全国で一番参加者数が多いと聞いている。エコバックがもらえるなどと口コミで広がり、高齢者等がまちの中を歩いてポイントを貯めている。

今後、重層の仕組みで何か活用できないか他の自治体と研究していきたいと思っている。

### 【 委員 】

社会福祉法人は利用者サービスだけでなく、公益の福祉のための活動をしていかないといけないと思っている。その社会貢献事業の中で、特別養護老人ホームを中心に15法人が八尾独自の取組みを進めている。社協との連携として防災を中心に動いており、石川県の災害もあったことから、八尾は大和川、山手の問題があり、BCP策定が義務化される中で、市民の避難計画についても、社会福祉法人として協力していかないといけないと思っている。

### 【 会長 】

個別の法人がそれぞれ独立して経営できていないといけない。また、厳しい状況でも事業を継続できるような計画が必要。八尾市内でのネットワークや法人間での連携は強いのか。

### 【 委員 】

社会福祉法人の高齢、障がい、子どもなど分野を超えて横のつながりが強くもてるように、各分野で何ができるかを話し合っている。

### 【 会長 】

大阪は2004年から社会貢献事業で、高齢者の老人施設部会が中心になって、社会福祉法人が利用者サービスだけではなく、地域課題にも向き合っただけで対応していきこうと生活困窮者の支援などを始めた。

兵庫県は大阪のようにできないので、49市区町のうち、社会福祉法人が連携協議会組織「ほっとかへんネット」を作って、今は40か所ほどが組織化している。今年の4月からは、ほっとかへんネットワークを配置して推進する予定である。

八尾市には、社会福祉施設連絡会があるのか。

### 【 事務局 】

社協が事務局を担っている。

【 委員 】

社協で、八尾市内の高齢・障がい・こどもの3分野を中心に社会福祉法人や施設をまとめて連絡会を作り、勉強会や会議を開催している。

連携としては、災害時や困窮者へのフードバンク事業を通じて連携している。こども分野には、おむつ・ミルクを提供してもらうなど、連携の幅を広げている。

【 会長 】

西宮市のほっとかへんネットと同じように、八尾市もおせっかいネットと名付けるなど、八尾市の取り組みをさらにPRする工夫をしてはどうか。

【 事務局 】

大阪府内の社会貢献事業として大阪しあわせネットワークがある。

【 委員 】

障がい者の代表として参加している。以前は、地域の人たちが助け合って暮らしているのが当たり前であった。雨が降ってきた時や仕事先から帰ってきたら、声をかけて助け合おうとしていたが、今は近所の人は何をしているのか、障がい者がどこに住んでいるのか知らない。どのように知ってもらうかが課題で、障がい者も住みやすい地域になってほしい。

【 会長 】

1.5 避難所などの避難所に行くまでをどのようにサポートするのか。福祉系の職員が疲弊するので、広域的にサポートできる体制が望ましいが、奥地に行くほど大変になる。まだ八尾市はアクセスがいいので、安全を確保しながらどう生活していくかを真剣に考えないといけない。身体に障がいがある方や集団生活ができない人もいるので、個別に計画を立てないといけない。

【 委員 】

町会加入率が減ってきたというが、戸建ては90%ほどが近隣住民と顔見知りであったり、町会加入者だったりするが、大型マンションの人などは交流が少ない。駅から直結するマンションなどは便利でいいが出歩く必要がなく、また夜間まで帰って来ない住民もおり、近隣住民に興味がない状況がある。こどもの見守りという点では町会ごとに対応し、最近見ないなというこどもには声をかけていたりする。

【 会長 】

マンションの人も地域に愛着を持ってもらうためにはどうしたらいいか。高齢者も便利とい

うことで、駅近マンションに引っ越ししてきたりする。そのような人にどう掛け合っていくか。

【 委員 】

入り方によるのではないかと。①マンションとして町会加入。②個々に任せている。③管理組合を作り、独自のコミュニティを作っている。のパターンがあると思う。

②個々に任せているパターンが大変で、マンション内でコミュニティもなければ、行政とのつながりもない。豊中市などは団地フォーラムを開催するなど、仕掛けづくりをしている。

【 会長 】

八尾市の人口移動はそこまで大きくない。集合住宅の人にも地域に馴染んでもらえるようなコミュニティづくりの仕掛けがあるのではないかと。

【 委員 】

マンションに息子が住んでいたが、人とのつながりをもつことが難しかった。人の世話をすらくらいであれば引っ越しすると言っている人もいた。人と関わりたくないからマンションに引っ越ししたり、表札を出さない家もたくさんある。

【 会長 】

人とつながりたい、人と距離を置きたいという両方の気持ちがあるのは理解している。しかし、何かあった時、必要な時につながれるようにしておかないといけない。

【 委員 】

八尾市は町会＝子ども会になっていることが多いが、タワーマンションの中でも子ども会を作ってもらうことができた。

また、子ども会の休会・退会が増える中で、地域ニーズにあった連合子ども会を作った。役職はなしで、年会費は100円。違う子ども会の子どもたちも同じ学校に通う子どもであるため、一緒に大畑山に行った際は和気あいあいと交流していた。

学校支援ボランティアでは、学校に出向いて活動することで、子どもたちと顔見知りになり、学校外でも声をかけてもらえるようになった。

子どもたちの居場所や地域の力など、これからは無償で支援することが大切になってくるのではないかと考えている。

【 会長 】

学校支援ボランティアは、校内を出入りしているのか。

【 委員 】

学校側から発達障がいのある子どもたちをサポートしてくれないかとの声もあり、朝から14時30分までの間、一緒に校内で過ごしている。

登校時の旗持ちをさせてもらうことで、子どもと保護者とのつながりも出来てきている。

【 会長 】

組織として会長がいると敬遠されてしまう。気軽に参加して、対等にサポートしようという方がしやすい。

【 委員 】

民生委員・児童委員は、高齢者対象の活動が主になっているが、児童委員としての活動もやっていかないと地域の子どもたちを守っていけない。学校に声掛けをして家庭科実習の手伝いをしているが、民生委員・児童委員だけでなく、地域のボランティアも募りながら徐々に学校に歩み寄っている。

小学校入学直後は、下校時自宅まで見送るが先生だけでは手が足りない。そのサポートも一緒にすることで地域にどんな子どもが入学したのか、また、保護者にも民生委員・児童委員の顔を知ってもらうことができ、親も子も安心する。

他にも、不審者が出没した際も学校から連絡があり、民生委員・児童委員で声をかけて見守りを行った。

いつ何が起こるか分からないので、災害時や緊急時にすぐ動けるように今から準備をしておきたい。

【 会長 】

大切な活動である。すぐに効果が出ないかもしれないが、子どもたちにいい影響を与えようと思う。

【 委員 】

困ったことがあったら言ってねと声掛けをしておくことで、何かあった時に対応できる。

また、健康な人だけでなく、ひとりで避難できない人なども防災訓練に参加してもらいたいと思っている。

【 会長 】

それも大切であるが裾野を広げていかないといけない。何かに触発されるなどきっかけがないと参加にはつながらない。

日本は子どもを大切にされていない国であり、不登校児が約30万人いる。特別支援学校の児童数も相当数いる。いじめは約60万件、虐待も約21万件あるなど、子どもが学校や親

以外の大人と触れて、辛い時に SOS を出せるように意図的に作り出さないといけないと思っている。その点でも地域でのネットワークづくりは大切である。

明石市はこども中心の政策をたくさんしていて、小学校区に2つずつこども食堂を置いたり、市独自に児童相談所を置くなど、こども担当職員や予算を増やすなど事業を強化している。八尾市とも人口規模は変わらないし、地域福祉計画を元に変えていけるかもしれない。

#### 【 委員 】

挨拶運動はとても大切だと思う。私も 20 年前に、マンションでこども会を立ち上げようとしたが賛同してもらえなかった。隣の地区のこども会に参加する人もいたが、参加しないと市民スポーツ祭や校内キャンプにも行けなかった。こども会を作るのは難しいと思った。マンションの組合の中では避難訓練をしている。

デジタルサポーター養成講座は、すごくいい取り組みだと思った。消費者センターで相談を受けているが、ペーパーレス化や WEB 化が進む中で、高齢者が不安に感じている。電力会社などの通知も紙でほしいのであれば、お金がいる時代になりつつある。

消費者相談では詐欺の相談が多く、高齢者が集まるところで啓発してはどうかと言われたが、出向かないひとり暮らしの高齢者に対しても、泣寝入りしないように声をかけてあげれるようにしたいと思っている。

#### 【 会長 】

地域から孤立した高齢者が圧倒的に詐欺にひっかかることが多い。

#### 【 委員 】

寂しさから息子からの電話だと思って、詐欺に引っかかってしまう。娘の場合はあまりない。

#### 【 会長 】

息子から電話があったことを話す、相談できる場所がない。

そして、こども会を作るのは難しいことが分かった。

#### 【 事務局 】

地域福祉ではこどもの話はよく出てくるが、こどもの分野では地域と一緒に支援するという発想が、八尾だけではなく全国的に出てきにくく、地域福祉側の発想で地域がこどもを見守れるように手を伸ばさないといけないと意見を聞いて改めて思った。制度の成り立ちが児童福祉が後発であることも関係していると思うが、国も市も変えていかないといけないと思っている。「やおでおや」になるというキャッチコピーでやっていきたい。地域福祉の方からこどもを見守る仕組みが作れたらと思う。

【 会長 】

親はいるけど自宅にいないなど、こどもの家庭環境が悪い世帯に行政が関わろうとすると、措置の対象になってしまう。地域の中で、住民のサポートを活かしながら、地域でこどもを支える仕組みがないと児童福祉が機能しない。

【 委員 】

朝ごはんを食べていないこどもが思っている以上に多い。その中で晩ごはんを食べていないこどももいる。

現在、校内で朝ごはんを食べる計画を進めている。不登校の子も来にくいとは思いますが、食べてそのまま登校する仕組みを早く実施できるようにしたい。これは、学校の協力がないと進められない。

【 会長 】

学校は重要な機関であり、こどもの居場所でないといけない。日本は家族を信頼し過ぎている。家族が機能不全になった時に被害を被るのはこどもであり、地域の力でこどもを育てていかないといけない。

【 委員 】

過去に不登校であった青年たちが運営している「よってこ」で、こどもの居場所の考え方を話し合う機会があった。発達障がいではなく、個性が少し強いだけである。大人は考えを押し付けてしまいがちであるが、当事者は悩むこどもの気持ちが分かる。「よってこ」では、一般の食堂をしながら、週3日こども食堂を運営している。

行政的には事故のない施設でないといけないが、自由な発想でこどもがやりたいことを企画し、それをサポートしていく方法に変えた。これからの社会はこどもが暮らすまちなので、そのためのもちづくりを応援していこうと思っているが、町会制度が邪魔をしている。こども会があって町会がこども会を応援していく。学校が協力してチラシ配架や SNS を活用することで、こどもたちは情報をつかむのが早く、様々な機会を通じて八尾のまちを知っていくことができる。

町会活動は町会内で、自治振興員会は八尾市民全員を対象にしてはどうかと思っている。

【 会長 】

まち協は外向きで柔軟である。関心が内を向いていると閉塞感が生じるので、外を向いていかないといけない。

【 委員 】

高齢者施設でケアマネをしている。認知症カフェを運営しており、認知症の人が避難所生活

するとどうなるかを話し合ってみた。地域の人が15名ほど参加され、認知症になることが怖いという意見が多かった。災害はいつ起こるか分からないものであり、まずは、知ってもらうことが大切ではないかと話をした。

甥が自閉症で、年中ビーチサンダルに半そで短パンであり、脇に何かを挟んでいないと落ち着かないが、危険な人物としてネットに上がっていたことがあった。また、切腹行為とみられる動きをすることがあり、警察に通報されたこともある。

認知症、高齢者、子どもなどみんなと一緒に集まれる場所があるといいなと思っている。美味しくごはんを食べていないと思うことも多く、ご飯を食べることは幸せを感じる行為の1つであるため、そういう場所があればいいなと思う。

#### 【 会長 】

甥も日常的に関われる機会があると普通のことである。みんな多様な人材に触れる、認知症の人も家族が必死になって介護をしたり施設に入ったりするので、触れ合う機会がない。認知症の人も普段の生活に溶け込む方がいい。

#### 【 委員 】

関わりたくない、知られたくないと言う人もいるが、家族のことを知ってもらうことで助けられている。

被災時、認知症の方へのサポートは、毛布や好きな物を持たせてあげる。また、ゆっくり声をかけたり、さするだけでも大丈夫である。3日が限度と言われている。

#### 【 会長 】

安心のために何が必要か、ほっこりさせてあげることが必要である。ケアの基本であり、これは誰にでも必要なことである。干渉されたくない人も関わっていないといけなく、関わりの方が違うだけで心地いい距離感が大事ではないか。

### (3) 第4次八尾市地域福祉計画の中間見直しについて【資料2】

<事務局から下記の資料を説明>

【資料2】第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しにかかるスケジュール(案)

【資料2(参考①)】地域福祉に関するアンケート調査(市民対象)(令和元年12月実施)

【資料2(参考②)】地域福祉に関するアンケート調査(福祉関係者対象)(令和元年12月実施)

【資料2(参考③)】地域福祉に関するアンケート調査(相談支援機関対象)(令和2年6月実施)

<委員の意見・質問等>

#### 【 委員 】

アンケート結果を踏まえて計画の見直しを行うとのことであるが、タイトなスケジュールであるため、委員としても先に事務局に基本的な考え方を確認したい。

【 事務局 】

今回は中間見直しであり、今進めてきているおせっかい日本一の方向性は引き続き進めていく。コロナ禍などの影響で当初の想定と違う実態や住民の困りごとなど、見えてきたものもあり、それらを反映したり、今日いただいた内容も反映できるようにしていきたい。できているところは拡大していき、行政だけでなく皆さんにも進めていただけるように、また市民にもわかりやすくお知らせできる計画にしたいと思っている。

【 会長 】

今日の議論も含めて、今ある計画をベースに見直すということである。こども関係の内容を考えないといけない。

【 事務局 】

こども部局の計画もあるので、地域福祉の視点では盛り込んでいきたいと思う。認知症基本法が1月1日に施行され、社会問題としては認知症がどういうものか分かっていると思うが、いざ関わるとなるとどうしたらいいのか分からなくなる。他人事ではなく、自分事としてどのように地域に反映させていくか。皆さんの意見を参考に、自分事となるように施策に反映していきたい。

**次第3**

その他

特に意見なし。

閉 会